

産地基盤整備パワーアップ事業の取組事例(28~30年度:計画作成主体:金沢市農業活性化協議会)(石川県)

取組の概要

対象品目 : 酒米 (産地面積13ha)
 主な取組主体 : 金沢市農業協同組合
 組合員(酒米)14名
 成果目標 : 契約栽培の割合増加
 導入施設等 : 整備事業(乾燥調製施設)
 建物(54㎡), 乾燥機(2台),
 粳摺り機(1台)ほか

石川県
 金沢市
 薬師谷、三谷、医王山地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

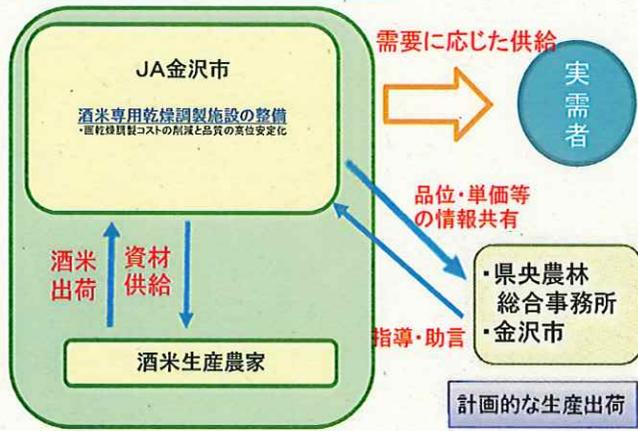
県内産の酒米需要の増加に対応して増産に取り組んでいるが、農家個人の乾燥調製施設の老朽化が進み、作業効率の向上と産地の持続的発展のため、酒米専用の共同乾燥調製施設の整備が求められている。



【産地の体質強化に向けた方策】

①JA金沢市による酒米専用の共同乾燥調製施設の整備支援

産地体制



地域における独自の取組

- 〈主な取組〉
- ・JA金沢市及び金沢営農協議会による酒米栽培指針の作成
 - ・県が開発した酒米「石川門」の生産
- 〈市町村単独事業〉
- ・金沢市からの補助金交付

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①整備事業による初期投資の節減効果
- ②乾燥調製作業のJA集約により、乾燥調製コスト削減と品質の高位安定化の効果

【事業実施による間接効果】

- ①契約栽培(JA、JA全農、県酒造組合の三者契約)による生産者の収益安定
- ②酒米産地の拡大

**酒米の契約栽培
 57.0%増加
 (達成率114%)**

